

豊崎プラザ 第3回 長屋路地アート

Toyosaki Plaza The Third Nagaya Roji Arts Festival

豊崎プラザでは、2009年5月30日(土)に「第3回長屋路地アート」が開催され、110名余りが参加した。今回の長屋路地アートの目的は、耐震改修工事が完了した長屋のお披露目と、この間の取り組みに対する数々の受賞の報告であった。恒例の町家寄席は、普請をほめることを題材にした上方落語の「牛ほめ」で一同が大笑いして、幕を閉じた。

改修工事が完成した長屋を見学したあと、主屋で報告会が開かれた。最初に、藤田忍(生活科学研究科教授)から「2008年度関西まちづくり賞」(日本都市計画学会関西支部)の受賞が報告された。この賞は、関西のまちづくり及び都市計画の分野で貢献したのものや、特色のある取り組みに贈られるもので、審査評では、「都市住宅としての長屋の活用と住宅経営モデルの確立や他の長屋所有者への波及効果、また大学がまちづくりに果たす役割において今後貢献することが大きい」と高く評価された。

つぎに、小池志保子(生活科学研究科助教)から、2007年度に改修された北長屋が「第25回住宅リフォームコンクール」の理事長賞と、「リジェネレーション・建築再生展 第8回設計アイデアコンテスト」の環境賞を受賞したことが報告された。いずれの賞も、元の建物を尊重しつつ、斬新なデザインによって再生され、かつ都市の活性化につながる汎用性を持つ点が評価された。この北長屋の改修は、2008年度日本建築学会大会建築デザイン発表会でも、

耐震設計や手法、学生らの現場施工への参画、完成後のクオリティの高さが評価され、「木造建築の可能性発表顕彰」を受けている。

専門の学会で評価される一方で、長屋路地アートによって、地域の人びととの交流も着実に進んでいる。居住者のプライバシーに配慮して大がかりな広報は行っていないが、回を重ねるごとに地元からの参加者が増え、今回は近隣の居住者が知人を案内する姿も見られた。アンケートには、改修工事への評価や、改修長屋に住みたい、プロジェクトに参加したいとの声があった。

「街に溶け込む大学、市民や都市とつながった研究組織」を目指す、大阪市立大学都市研究プラザの現場プラザの一つとして、豊崎プラザの果たす役割は

大きなものがある。

<< 綱本琴(豊崎プラザRA)



設計者の学生が改修長屋を説明する様子



第3回 長屋路地アートの案内

The Third Nagaya Roji Arts Festival was held on May 30, 2009 at the Toyosaki Plaza with more than 110 participants. The purpose of the meeting was to announce the completion of seismic retrofit of the nagaya and to report on the recent awards for the project. After a tour of the reconstructed nagaya, a meeting was held at the landlord's house and there were reports from Fujita Shinobu (Professor, Graduate School of Human Life Science) on the Kansai City Planning Award, and by Koike Shihoko (Assistant Professor in the same department) and students involved in the building project on the Reform Competition and the Regeneration and Architectural Revitalization Exhibition. While this was praise-worthy as an academic meeting, this was an occasion that also substantially furthered interaction with the people in the community. As one of the field plazas whose goal is a 'research organization connected to the citizens and the city', Toyosaki Plaza is playing a major role.